崩壊前夜の日本の医療

６月３０日、「リハビリ診療報酬改定を考える会」は４４万人の署名と制度撤回を求める要望書を厚生労働省に提出しました。これは４月の診療報酬改定によってリハビリテーションは上限１８０日に限定されたことに抗議するためです。リハビリテーション上限設定は単に医療費の抑制のためだけの医療制度改革であることを示す典型的な例です。脳血管疾患、運動器疾患の患者さんはリハビリテーションをつづけることによってのみ機能を改善し、また維持する事が可能です。厚労省は維持期に入った場合は介護施設によってリハビリテーションを行えばよいと考えですが、実際は介護施設で充分なリハビリテーションを行うことは人的にも、設備においても医療機関で行うと同じようにはできないことは明かです。重度の認知症の患者さんと一緒の場合はリハビリテーションと言ってもリクリエーションのようなものになってしまいがちで、認知症でない患者さんの期待に応えるようなことはできないことが多いようです。

また現在３８万床の療養病床を１５万床に減らすことを決めました。２３万人は自宅に帰すということです。すべての人が在宅で充分な介護を受けられるでしょうか。すでにあちこちで食事代、居住費等が自己負担になったために入院費を払うことができないため退院し、自宅で悲惨な状況におかれているとの話が聞こえてきます。

どうしてこんな事になってしまったのでしょうか。皆さんは「経済財政諮問会議」という名前を聞いたことがあると思います。すべては経済界が「経済財政諮問会議」を利用し自分たちの利益のために国民を犠牲にしてまで医療費の公的給付を減らし、民間保険を利用させようとしている策略です。このままではアメリカと同じに低所得者は保険にはいることができない無保険社会になってしまいます。先日の新聞報道によれば健康保険料を払えないために無保険者になってしまい、治療を受けられずに死亡した人がすでに２１人いるとのことです。ほとんでが５０，６０歳代の人でした。

サッチャー政権が進めた医療費抑制政策でイギリスの医療は崩壊しました。日本の医療も崩壊前夜の状況になっています。

医師会は「欲ばり村の村長さん」というようなイメージをもたれています。現在でも４半世紀前の武見会長時代の印象をもたれていることを悲しく思います。

医師会は学術団体であるとともに会費を払った会員によって成り立っていますので当然会員の生活を守るための要求はせざるを得ません。しかし、まったく自分たちの利益のためだけに活動している団体では無く、国民の健康を守る事を常に考えて活動していることを理解して頂きたいと思います。

このままでは日本の医療は本当に崩壊してしまいます。国民の皆様が闘わなければならない相手は医師会ではなくて「経済界」であり、自分たちの天下り先の確保のために経済界の言いなりの「厚生労働省を始めとした官僚組織」であります。

経済財政諮問会議の座長はあの「村上ファンド」に資金を提供したオリックスの宮内会長です。彼は以前に「混合診療解禁」を主張し、「お金のない人が高度な医療を受けるためには自分の家を売ればいい」と言った人です。このような人が国民の健康を第一に考えていると思いますか。「国民皆保険」という世界に誇れる医療制度を守るためには国民の皆様と医師会が一緒になって運動しなければなりません。国民と医師会を対立させようという経済界の陰謀に惑わされないで下さい。平均寿命世界一を守り、健康寿命の増進のためにともにがんばりましょう。お願いします。

院長　小松　満

Dr. 中島の

な～るほど・ザ・ホスピタル

腰部脊柱管狭窄症について

今回は腰部脊柱管狭窄症という病気についてお話します。皆さんには聞き慣れない変な病名と思いますが、最近テレビ司会者の〝みのもんた〟さんが手術を受けて知名度がぐっと上がりました。診察室でも、みのもんたと同じ病気ですと説明すると、すぐ理解してもらえますが、少し詳しく説明しましょう。

人間の背骨は中心が中空になっていて、ここに脊髄神経が通っているのですが、この神経の通り道を脊柱管と言います。特に〝こしぼね〟医学的には腰椎と言いますが、体を支えており動きも激しいので、背骨の中でも特に負担のかかる部位です。したがって40歳以上になりますと、腰椎の椎間板（軟骨）や脊柱管の後方にある椎間関節などに変形が起こり、神経の通り道に出っ張ってきます。そうすると神経の通り道（脊柱管）が狭くなる訳です。腰のところで神経が圧迫されると、大腿後面から下腿の痛みと痺れが出現します。いわゆる「坐骨神経痛」です。お尻のあたりが痛いと、坐骨神経痛がつらいとおっしゃる方がいますが、あれは腰椎の関節の痛みで神経痛ではありません。、太ももから足の方まで痛むのが坐骨神経痛です。この症状が腰部脊柱管狭窄症の主な症状です。

腰部脊柱管狭窄症には、３つの特徴的な症状がありまして、１．腰痛　２．坐骨神経痛　３．間歇性跛行　の三兆候です。

３番目の間歇性跛行という言葉も、聞き慣れないと思います。少し歩くと、腰から太もも・ふくらはぎ・つま先にかけて痛みや痺れが強くなったり、足全体が重くなったり、足に力が入らなくなったりして歩けなくなり、数分間腰掛けたり、しゃがんだり、腰を前屈みにしたりして休むと、楽になってまた歩けるという状態です。つまり、連続ではあまり歩けなくなり、休み休みでしか歩けない状態のことを言います。

この三つの症状がそろっていれば、腰部脊柱管狭窄症でほぼ間違いありません。病院での検査は、神経学的な診察に加えて、レントゲン検査とMRI検査を行い、診断を確定します。

次に、治療についお話しましょう。まず最初は、痛み止めや、痺れを和らげるビタミン剤・プロスタグランディン製剤などの内服薬、コルセット装着、理学療法などを行います。
これで効果がなければ、神経ブロックを行います。これは神経の通り道に、痛み止めを注射するものです。半分以上の方に効果があります。これで症状が改善されず、患者さんがなんとかしてくれとおっしゃった場合は、最後の手段として手術を行います。ただし、この病気は癌などとは違い命に関わる病気ではありませんから、手術を受けるかどうかはご本人の希望で決定されます。もしすぐに手術を勧める医者にあたったら、「怪しい」と考えて下さい。段階を踏んで治療を受けたのに、症状がつらくて日常生活や仕事に支障がある時に手術を考えて下さい。また手術を考えている方は、手術は安全にできますからあまり心配しないで下さい。「腰の手術を受けたら車椅子になってしまうからやめた方が良い」と親類や友人に言われて悩んで来院する方がいますが、そんなことはありません。
内輪の話をしますと、腰椎の手術は、整形外科の手術の中では実は簡単な手術の部類に入ります。少なくとも当院では、開院以来車椅子になった方は一人もいませんのでご安心下さい。診察の際、ご心配な点につきましては詳しくご説明しますので、なんなりとお聞き下さい。

副院長　中島　宏

通所リハビリテーション　すだち

５月１５日より開設しました『通所リハビリテーション　すだち』をみなさんはご存知ですか？もっと多くの方にご理解頂くため、今回具体的例も交えてご説明したいと思います。

通所リハビリテーション（デイケア）とは？

通所リハビリテーションとは、介護保険を受けられている方を対象にしたリハビリテーションサービスです。

通所系のサービスには、「通所介護（デイサービス）」と「通所リハビリテーション（デイケア）」があります。デイケアでは、理学療法士や作業療法士などの専門家の人員配置が定められているので、心身機能の維持回復により重点がおかれていることや、医師の指導のもとで利用者の体調に配慮して実施されている所に特徴があります。

利用者の方には３～８時間施設で過ごして頂き、リハビリテーションやレクリエーション、趣味活動、食事の提供、入浴サービス等を行い、健康の維持増進を図り、自立した生活を送れるように改善していくことを目的としています。

巣立 太郎さんの例

72歳、男性。以前より両膝に痛みがあり、整形外科に通院していた。最近、歩き始めにふらついたり、転びそうになることが多くなり、あまり外出をしなくなっていた。去年の冬、インフルエンザにかかり、１週間寝込んだ後からは体力がおち、楽しみだったゲートボールや老人会の旅行にも参加できなくなった。
今回、家族の勧めで介護保険を申請し、要支援２と認定され「すだち」に通うことになった。

「すだち」での太郎さんの一日

● 9:00　朝のバイタルチェック：
　太郎さんは高血圧があるため、リハビリや入浴前に体調を確認する！

● 10:30　個別リハビリ
　①膝の関節の動きの改善と痛みの緩和

①

②

　②膝を支える筋のトレーニング
　※まずは自分の足の重さを持ち上げて筋力強化！
　　さらに重りを足に巻きつけて筋力強化！！

③

　③体力向上のための全身運動
　　※エアロバイクを使って全身運動をしました。

　その他に、太郎さんの状態に合わせた写真解説付きの「自分でできる運動の紙」ももらいました。

● 11:00　入浴：ご希望により入浴サービスをうけられます。
　膝の痛みで立ち上がりにくい太郎さんには、高めのシャワーチェアーや手すりつきの浴槽の利用により、一人で入浴が可能となりました。

● 12:00　昼食

● 13:00　午後のバイタルチェック：リハビリ後のため、午後の運動前にも体調を確認します。

● 14:00　レクリエーション：今回は、「筋力強化」がテーマのため、股関節や膝関節、足関節の運動やサッカーゲームをしました。

「通所リハビリテーションすだち」では、ご利用者一人一人に合わせたサービスを実施しています。
興味のある方はいつでも見学可能ですので、お立ち寄り下さい。

理学療法士　端﨑　夏紀